

生協労連・憲法闘争ニュース

毎月の「9の日宣伝」

大阪いずみ市民生協労働組合

「九条署名推進・堺共同センター」が結成されたのが約4年前。労働組合として、いずみ内の9条の会の設立と共に、地域の共同センターにも加わり、以降4年間、単組書記局近くの「三国ヶ丘駅」での「9の日宣伝」に、毎月とりくんでいます。三国ヶ丘駅はJRと南海電鉄の接続・乗換駅で、どちらかと言えば足早に通過する人が多い駅です。



とりくみはじめた当時は「小泉劇場」の真ただ中で、「9条を守ろう」を中心にハンドマイクで呼びかけるものの、当初はあまり関心を示さない人が多く、苦労しました。

その後、参院選で与野党が逆転してからは、自衛隊海外派兵反対も一緒に宣伝し、次第に

手ごたえを感じるようになってきました。そして昨年末以降は、9条だけでなく25条も守ろうと宣伝。生存権が脅かされ、くらしの不安が増大する中、多くの人がビラを受け取ってくれ、署名に応じてくれるようになりました。現在では、1時間の宣伝でビラやリーフなどの配布が約150枚、署名は約20筆がほしいの到達点です。

こうしてあらためて振り返れば、時々的情勢と憲法とをわかりやすく結び付けて訴えることが大切だと感じます。

地味なとりくみではありますが、今後がんばります。(カン)

核兵器廃絶 & 憲法署名を持って、外にしよう!

生協労連 2400 作戦

原水爆禁止2009年世界大会開幕!

8.3~5 「国際会議」 広島にて

8.6 「世界大会・広島大会」

8.7~9 「世界大会・長崎大会」

世界は核兵器廃絶の方向へ、この変化を確信し、世論と運動を強めよう!

7月度の集約結果

夏こそ、平和の署名にとりくみましょう。核廃絶署名と憲法署名が一体となった新署名用紙もあります! 署名行動用にぜひ、お使い下さい! 申込みは生協労連まで!

核廃絶国際署名「核兵器のない世界を」

27 単組 17803 筆 平和の2つの署名集約

憲法9条署名 (旧署名+新署名)

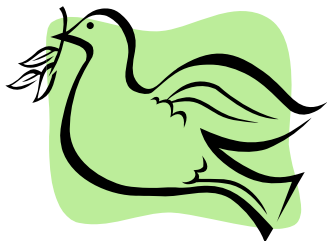
45 単組 96511 筆 (12月末、4月)

なぜ、労働組合が平和問題にとりくむのか

連合通信 / 労働部デスク・伊藤篤

8月8日は、6日と9日の原爆の日、15日の終戦記念日など戦争と平和について考える機会を与えてくれます。平和運動に取り組む労働組合も少なくありません。一方で、「なぜ労働組合が平和運動に取り組まなくてはならないのか、分からない」という声が組合員から出されることも。

確かに組合の目的は雇用と労働条件の維持・向上です。平和運動を行うことが主要な目的でないのはその通りですが、では平和問題と無関係でいいのでしょうか。この問題について、改めて考えてみました。



ILOと平和問題

ILO（国際労働機関）という国際機関があります。ILO条約をつくって、各国にその順守を求めている国連の組織です。

一般の組合員には今ひとつなじみが薄いものの、国鉄の分割民営化に伴う不採用問題、公務員労働者の労働基本権などで「ILO勧告」が日本政府向けに出されています。そんなに遠い存在ではないのです。

労働問題を扱っているこのILOが、実は戦争と平和に深いかわりがあることは、案外知られていないようです。

第1次大戦の教訓

設立されたのは、第1次世界大戦終結直後の1919年。パリ、次いでベルサイユで開催された平和会議で誕生しました。

設立の動機は3つ。第1は人道的なもので、労働者の健康や生活などが搾取によって悪化してきたことを見過ごせなくなったためといえます。

第2は、労働条件が改善されないことで社会不安が起きないかと懸念されたことです。不正は「世界の平和及び協調が危うくされるほど大きな社会不安」を起こす（憲章前文）

という問題意識です。

3つ目の動機は、経済的なもの。「人道的な労働条件」を採用しない国が、国際競争で有利になる事態を避けようということです。

フィラデルフィア宣言

そして、平和会議の場ではもうひとつ、動機が追加されました。「世界の永続する平和は、社会正義を基礎としてのみ確立することができる」（憲章）という内容です。

つまり、労働者の状況悪化を放置しておくことは、平和の土台を掘り崩すことになる、という考え方です。逆にいうと、労働者の状況を改善していく作業は世界から戦争の芽を摘むことにつながる、ということ。

この理念は、1944年5月のフィラデルフィア宣言に結実しています。

フィラデルフィア宣言は、労働は商品ではない 表現及び結社の自由は不断の進歩のために欠くことができない 一部の貧困は全体の繁栄にとって危険である 欠乏に対する戦いは各国内における不屈の勇気をもって...遂行することを要する ことを確認しています。

貧困を放置するな

労働者をもの扱いすること、格差と貧困の広がりを放置すること、それは「平和」を侵食していくのだと言っているのです。だから各国で「欠乏に対する戦い」に勇気を持って立ち上がろう、と同宣言は呼びかけています。

政労使3者構成のILOがこういっているのです。

日本の現実に照らしてみれば、労働者をもの扱いする労働者派遣法や昨今の格差と貧困という問題の解決が求められている、ということになります。

労働組合の本来の目的を達成することが、平和な社会づくりに大きく関係しているのです。平和をつくりだす勢力として、期待される存在となっています。

平和問題と組合運動とは密接な関係にあります。そのことは、平和運動に対しても新たな視点を提供してくれるかもしれません。

090805・0820 労働情報・連合通信特信版